

第24回 花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール

受賞者の業績概要

平成27年3月

一般財団法人日本花普及センター

第24回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール

表 彰 式

平成27年3月9日（月）13：30～
学士会館
東京都千代田区神田錦町3-28
TEL 03-3292-5936

表 彰 式 次 第

- 1 開会あいさつ
一般財団法人日本花普及センター 会長 今西英雄
- 2 審査講評
審査委員長 日本大学生物資源科学部 教授 腰岡政二
- 3 賞状授与
農林水産大臣賞 2点
農林水産省生産局長 3点
一般財団法人日本花普及センター会長賞 1点
- 4 祝 辞
農林水産省生産局 農産部園芸作物課
花き産業・施設園芸振興室長 網澤幹夫
- 5 記念写真撮影
- 6 懇談会
表彰式と記念写真撮影の終了後、出席者による懇談会を開催

第24回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール

審 査 講 評

第24回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクールは、花の国づくり都道府県協議会などより推薦がありました経営体について、6名の審査委員による提出された書類に基づく第1次審査と、現地での第2次審査を通して厳正に行われました。その結果、本共励会の最高賞である農林水産大臣賞には、次の2経営体が選ばれました。

岩手県八幡平市の新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会は、昭和47年にリンドウ栽培を始めた若手生産者が安代町農協花き園芸生産部会を組織したのが始まりで、以後、新岩手農協西部地域花卉生産部会を経て平成24年に今日の形に至っています。

現在の代表者は高村敏彦氏ですが、リンドウの種苗の確保と新品種育成保護を図るために部会会員が出資する一般社団法人安代リンドウ開発を設立し、JA新しいわて、八幡平市農業振興支援センター、八幡平市花き研究開発センター、八幡平農業改良普及センター等と協力してリンドウ生産振興策を展開しています。

部会では、昭和61年から品種開発を始め、オリジナル品種第1号として「安代の秋」を育成して以降、開発した品種を活用した産地化を進め、切花経営と鉢物経営が共存するリンドウ産地を築き上げてきました。このように新品種開発については、生産者自身が携わることにより営利栽培に向く品種を開発しやすい仕組みにしており、これまでに登録品種と未登録品種を合わせて切花30品種52系統および鉢物9品種を実用化しています。

生産面では、新規栽培者の育成に力を入れ、リンドウ専門指導員がきめ細かな指導を実施し技術の向上を心掛けています。

出荷・販売面では、全量農協出荷を原則にし、出荷規格に厳しい自主検査を行っています。さらに、平成14年から海外輸出に取り組み、オランダでのプロモーション活動、アジアや北米などへの新たな販路開拓を行っています。

労務管理面では、共同育苗体制の構築、マルチ被覆による除草作業、出荷調整作業機械の導入等による労働軽減、また、八幡平市シルバー人材センターを通じた雇用労働力の活用等の積極的な取り組みを行っています。

このように、リンドウ切花および鉢物生産経営において、創意工夫により安定した生産・販売を維持していること、環境に配慮した生産を実施していること、過去3年間において出荷数量、経営収支ともに安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞にふさわしい花き生産の模範となる経営体であると判断されました。

埼玉県鴻巣市の朝見良治氏は、鉢物・苗物の複合経営を行っています。昭和43年に就農しポットマムの施設花き経営を開始しました。その後、栽培品目を増やし、現在では、ポットカーネーション、ガーデンシクラメン、ラナンキュラスを主品目とし

てイベリス、ペラルゴニウムなどを組み合わせた作型から多品目生産によるリスク分散と収益の安定化を目指しています。この間、平成5年に法人化して有限会社アサミグリーンプランツを設立し、後継者の就農に合わせて施設の改築・改良を行い、作業の自動化や機械化に対応した働きやすい作業環境の整備に努めています。

栽培面では、定植後のかん水量に細心の注意を払うため手かん水を行い、その後は鉢用土の配合割合を品目ごとに変えることで底面給水システム利用でも均一な生育が得られるようにしています。

出荷・販売面では、生産量の80%以上を受注生産とし、安定した価格で取引しています。また、動画を配信し生育状況や開花状況などを公表することで信頼を得ています。さらに、昭和61年には農協花き出荷協議会を設立して鉢花の系統共同出荷を行っています。

雇用管理面では、従業員の教育に力を入れモチベーションを高める工夫や海外研修を重ね、働きやすい環境を意識しての設備投資を実施しています。

環境保全面では、用土・ポットの再利用により資源活用とコスト低減に努め、施設内環境を清潔に保つことや効率的な薬剤利用により防除回数の削減に努めています。

このように、鉢物・苗物生産経営において、創意工夫により安定した生産・販売を維持していること、NPO「花と文化のふるさと委員会」の代表理事として地域の観光や文化の発展に寄与していること、地域の雇用を創出し農業を担う人材育成をしていること、過去3年間の出荷数量、経営収支とも安定していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞に値すると判断されました。

農林水産省生産局長賞に選ばれました次の3経営体は、農林水産大臣賞に選ばれました経営体に収益性、あるいは、経営の安定性の上で僅かに及ばないものの、以下に述べる点で高く評価されました。

愛知県豊田市の梶孝光氏は、コギクと畜産の複合経営を営んでいます。昭和43年に養豚と稲作で営農を開始しました、その後、種豚経営から和牛繁殖経営に転換するとともにコギクの栽培規模を拡大し、現在では、有畜連携した複合経営で安定した経営を行っています。

栽培面では、飼育和牛の糞に地元のヒノキチップとコギク残渣を混ぜ込み堆肥化することで、コギクほ場の地力向上を図り、連作障害の軽減、高い生産性と高い切花品質を維持しています。また、標高差のある8か所のほ場と品種構成を組み合わせることで長期出荷を可能にしています。

出荷・販売面では、採花、運搬、水揚げ作業を集約し、作業場全体を冷却することで日持ち向上に繋げ高品質化に成功しています。さらに、市場との協議により短茎の出荷サイズで契約し1箱当たりの重量軽減、輸送個数の増加による輸送費の軽減にも繋げています。

作業面では、無摘心仕立てによる省力化、環境面では、堆肥の利用による化学肥料の削減に寄与しています。

このように、安定した経営を実現し、地域の雇用と地域農業の発展にリーダーシップを発揮していることが評価されました。

福岡県嘉麻市の豊田武・千代子夫妻は、切花経営を営んでいます。豊田武氏は昭和44年に就農し電照ギク栽培を開始しました。昭和50年に千代子氏と結婚した後は、栽培面積と作目を拡大し、現在では、電照ギク、トルコギキョウを主体にアスター等多様な品目の組み合わせによる周年出荷の生産体系を確立しています。その中、千代子氏は、経営管理や実習生の労務管理、直売所の展開など共同経営者として常に経営向上を意識して取り組んでいます。

栽培面では、収穫と苗生産を調整することで、高い施設利用率を実現し、定植時期に合わせた土壌消毒や堆肥施用等の土づくりで、施設利用率向上の生産体系を確立しています。主力であるトルコギキョウ生産では、冷房育苗施設を整備し自家育苗を行うことで高品質生産に繋がっています。

出荷・販売面では、9か所での直販を行うとともに、花商、市場関係者との意見交換会や商談会を開催し花の消費拡大や「筑豊の花」のPRを行っています。労働面では自動かん水装置による省力化、省エネルギーでは日没後加温による燃油量節減、熱エコフィンの設置等を行っています。

このように、安定した経営を実現し、地域の花き振興や生産者の連携強調、担い手育成に大きく貢献していることが評価されました。

長崎県松浦市の前田耕一・綾子夫妻は、シキミ切葉経営を営んでいます。前田耕一氏は、昭和48年に就農し夫妻でツツジ栽培に取り組んできましたが、平成16年にこれまでのほ場を活用できるシキミに品目転換を行いました。同時に、地域内の仲間とシキミの出荷組合を設立し、栽培技術の研鑽や市場開拓、新産地育成などに努めています。

経営面では、配偶者及び後継者と家族経営協定を締結し、経営の役割分担や収益の配分、就業条件などを明記しています。シキミは需要期が明確であることから、農繁期以外の経営対策としてシキミ育苗ハウスや露地ほ場を利用した草花類の栽培にも取り組んでいます。さらに、長崎県耕作放棄地解消総合対策事業を活用して耕作放棄地や遊休農地を利用した規模拡大と効率的な営農活動を実践しています。

栽培面では、栽植密度などほ場にあった栽培管理や、自家育苗による優良系統の増殖を行っています。環境面では、地域畜産農家との連携によるペレット堆肥の利用により環境への配慮を行っています。

このように、シキミ経営において安定した経営を実現し、地域農業の発展にリーダーシップを発揮していることが評価されました。

財団法人日本花普及センター会長賞に選ばれました次の経営体は、以下に述べる点で評価され本賞に値すると判断されました。

岐阜県岐阜市の島部勝昌氏は、鉢物経営を営んでいます。平成3年に就農し鉢物生産を開始しました。平成15年に有限会社フローラシマベを設立し、リース方式の大規模温室を利用することで、現在では、年36作のエラチオールベゴニアの周年栽培体系を確立しています。

栽培面では、低コストで高度な環境管理を行うためパットアンドファン、ヒートポンプ、LEDランプの導入や、冬期の炭酸ガス施用による高品質生産体系を確立し、

出荷・販売面では、幅広い販路の確保とリスク分散による安定した販売体制を構築しています。労働軽減には、プールベンチの活用、ポッティングマシン・スペーシングマシンの導入、マスプレーの導入を行い、雇用管理では、安定した就農環境を提供するため、完全週休2日制を導入しています。さらに、環境保全や省エネルギーについては、MPS-ABC環境認証への参加、ヒートポンプの導入、電力デマンドコントロールの導入を行っています。

このように、効率的な生産システムの構築による経営と地域の雇用に対する貢献などが評価されました。

わが国の花き産業は近年堅調な推移を維持しているものの、農業を取り巻く環境と同様に依然厳しい状況にあります。そのような中で、昨年、第186回通常国会において『花きの振興に関する法律』が成立し12月1日に施行されました。その第1条には、花き産業及び花き文化の振興を図り、もって花き産業の健全な発展及び心豊かな国民生活の実現に寄与する、とあります。今年度の審査会において推薦のあった多くの経営体が、すでにこの法律に沿った経営を実践していることに心強く感じました。

このような経営体では、栽培技術の高度化により生産効率を高めるとともに、生産コストや環境負荷の低減に努める一方、消費者ニーズに合う品目・品種の選択、オリジナル品種の育成、あるいはブランド品目の育成、さらに新しい需要の開拓にも力を注いでいます。また、生産活動と同様に、地域の活性化や雇用の創出、さらには後継者教育や花育にも努力をされていることには、頭が下がる思いがしました。

受賞者の皆様方には心からお祝いを申し上げますとともに、わが国の花き産業の発展のため、今後とも一層のご尽力を賜りますようお願いし、審査講評といたします。

平成27年3月9日
審査委員長
腰岡政二

**第24回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール 受賞者一覧表**

【農林水産大臣賞】

新岩手農業協同組合 八幡平花卉生産部会（代表者 高村 敏彦）

（しんいわてのうぎょうきょうどうくみあい はちまんたいかきせいさんぶかい）（たかむら としひこ）

切花・鉢花（りんどう）

岩手県八幡平市

朝見 良治（あさみ りょうじ）

鉢物・苗物（ポットカーネーション、ガーデンシクラメン、ラナンキュラス等）

埼玉県鴻巣市

【農林水産省生産局長賞】

梶 孝光（かじ たかみつ）

切花（コギク）

愛知県豊田市

豊田 武（とよた たけし）

豊田 千代子（とよた ちよこ）

切花（キク、トルコギキョウ、アスター等）

福岡県嘉麻市

前田 耕一（まえだ こういち）

前田 綾子（まえだ あやこ）

切葉（シキミ等）

長崎県松浦市

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

島部 勝昌（しまべ かつまさ）

鉢物（エラチオールペゴニア）

岐阜県岐阜市

【農林水産大臣賞】

**新岩手農業協同組合 八幡平花卉生産部会（岩手県） 代表者 高村 敏彦
切花・鉢物（リンドウ）**

当地域のリンドウ生産の組織的活動は、昭和47年、水田転換品目としてリンドウの栽培を始めた若手生産者（4Hクラブ員）が、栽培方法の確立、産地育成、販売対策などに組織的に取り組むため安代町農協花き園芸生産部会を組織したのが始まりで、以後、平成9年の農協合併により安代、西根、松尾の3支部体制、平成18年に3支部が一本化され新岩手農協西部地域花卉生産部会となり、平成24年2月に今日の新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会となった。

当部会は、会員数170戸の組織で、事務局をJA新しいわて八幡平営農経済センターに置くとともに、平成16年にリンドウの種苗の確保と新品種育成保護を図るために部会会員が出資する一般社団法人安代リンドウ開発(当初は有限責任中間法人)を設立し、八幡平市農業振興支援センター、JA新しいわて、八幡平市、八幡平市花き研究開発センター、八幡平農業改良普及センター等と一丸となって各種生産振興策を展開している。

部会では、昭和61年から品種開発を始め、地域オリジナル品種第1号として「安代の秋」を育成した（平成8年に登録）。平成4年からは、安代町花き開発センター（現八幡平市花き研究開発センター）に新品種開発を引き継ぎ、開発されたオリジナル品種を活用した産地化を進め、切花経営と鉢物経営が共存するリンドウ産地を築き上げてきた。

このほか、部会の活動として生産部面で特筆することは、新規栽培者の育成に力を入れており、平成23年：3人、24年：3人、25年：2人、26年：6人と新規栽培者が着実に増えており、関係機関に働きかけて一般社団法人安代リンドウ開発に設置された「りんどう専門指導員」がきめ細かな技術指導を実施し、中には栽培開始3年目で10万本以上を出荷する経営体も現れている。

共販活動では、全量農協出荷を原則にしており、出荷規格指導会の開催、厳しい自主規格検査を行い規格検査で指摘があった事項や市場からのクレームは、すべて個人に通知し個別に指導を行っている。また、部会創立30周年を機に平成14年から海外輸出に取り組んでおり、開始当初は赤字スタートであったが、鮮度保持や輸送費問題、価格低迷など幾多の課題を解決しながら次第に出荷量を伸ばし、平成20年には、約65万本が出荷された。以後、輸出実績が落ち込んでいるが、オランダでの価格低迷を打破するためのプロモーション活動、アジアや北米などへの新たな販路開拓に取り組んでおり、日本産花きの輸出拡大において重要な品目になっている。

オリジナル品種開発への支援については、研究協力費（種苗利用料）を徴収し品種開発の原資としており、これまでに拠出した累計額は約3.5億円に達する。また、現地試験ほの引き受け、栽培管理の請け負いや平成20年には「新品種実用化研究会」を立ち上げ、新品種開発に生産者自身が携わることにより営利栽培に向く品種を開発しやすい仕組みにしており、こうした部会の取り組みによりこれまでに登録品種と未登録品種を合わせて切花30品種（52系統）、鉢物9品種が実用化されている。

栽培技術について特に工夫した点は、オリジナル品種の栽培のほか、半促成栽培による作期前進、肥効調節型肥料（LPS）配合「りんどう定植2年肥料」の利用のほか、鉢物リンドウの管理技術の統一化により品質のばらつきを少なくしている。

労働軽減の部面では、マルチ被覆による除草作業の軽量化、出荷調整作業機械の導入、八幡平市シルバー人材センターを通じた雇用労働力の活用、「りんどう育苗研究会」を組織し苗の共同育苗体制の構築等を進め、冷涼な気候を有効活用し農協主導によりリンドウの全国責任産地としての積極的な取り組みを行っている。



リンドウの生産圃場における一斉巡回指導



リンドウの鉢物生産（恋紅）



海外輸出・香港でのプロモーション

【農林水産大臣賞】

朝見良治（埼玉県）

鉢物・苗物

（ガーデンシクラメン、ポットカーネーション、イベリス、ラナンキュラス、ペラルゴニウム、ポインセチア、ニチニチソウ、クロサンドラ、カラー、プリムラ等）

朝見良治氏は、高校卒業後1年間、県内の施設鉢物（ポットマム）経営農家で住み込み研修を受け就農、昭和43年にポットマムの施設花き経営を開始した。昭和48年には、栽培品目をポインセチア、ベゴニア、サルビア、マリーゴールドに、平成5年には、カラッコエ、シャコバサボテン、ポインセチア、プリムラ、アジサイ、花壇苗等を栽培、平成14年にガーデンシクラメンを導入、平成18年には、新たにポットカーネーションを加えるなどして、現在は、メイン品目を3種類（ポットカーネーション、ガーデンシクラメン、ラナンキュラス）とし、サブ品目2種類（イベリス、ペラルゴニウム）を主力と組み合わせ売上目標を設定している。更に、クロサンドラなど7種類を栽培し毎月販売収入が得られる作型を完成し多品目の組み合わせによりリスク分散と収益の安定を目指している。

この間、平成5年に法人化して（有）アサミグリーンプランツを設立し、毎月損益計算書を作成し前年対比することにより経営の問題点を明らかにし設備投資がスムーズに行われるようにするとともに、平成14年に後継者の就農に合わせて施設の改築・改良を行い、作業の自動化や機械化に対応した働きやすい作業環境の整備に努めている。

栽培技術について特に工夫した点は、底面給水による自動かん水システムでは、「根圏環境」が良好に保てず地上部と地下部のバランスが悪くなることが懸念される。このため、定植後上根を十分発達させるよう家族労力で手かん水を行い、かん水量に細心の注意を払っている。また、鉢用土は、自家配合にこだわり品目ごとに配合割合を変えることで、生育後半に底面給水システムを利用しても均一な生育を可能にしている。

出荷・販売面では、大量ロットの強みを活かした販売戦略を取っており、生産量の80%以上は受注生産を可能にした安定した価格で取引されている。更に、動画を配信し生育状況や開花状況などを適時市場や取引先に確認してもらうことで安心感を得ている。また、昭和61年に農協花き出荷協議会を設立し、全国に先駆けて鉢花の系統共同出荷を行っている。

労働軽減や雇用管理等では、従業員の教育に力を入れモチベーションを高める工夫や海外研修を重ね働きやすい環境を意識しての設備投資を実施している。また、花壇苗生産においては、花色を組み合わせ出荷するのが主流となっており、大変手間がかかるので、作業労力が集中する時期には、出荷調整作業に時間がかからない品目、すなわち単色展開されている品目を選定して生産し繁忙期でも十分対応できる体制となっている。

環境保全面では、用土・ポットの再利用により資源を有効に活用するとともにコスト低減に努め、殺菌剤、殺虫剤の使用を極力使用しないですむよう施設内環境を清潔に保ち、定植時の粒剤施用等効率的に薬剤を利用して防除回数の削減に努めている。

朝見氏は、地域の観光や文化の発展に寄与するためNPO花と文化のふるさと委員

会の代表理事を務めるとともに、鴻巣市農業委員長、（一社）日本花き生産協会鉢物部会会計を務めている。昭和63年から花き経営を目指す青年農業者の受け入れ、経営拡大の支援を行うとともに、知的・身体障害者の社会参画に当たっても場の提供を考えている。



ベゴニアの生産ハウスにおける朝見良治氏と後継者の朝見卓也氏



手作りの創意工夫されたプルーベンチ



ランキユラスの出荷作業

【農林水産省生産局長賞】

梶 孝 光（愛知県）

切花（コギク）

梶 孝光氏は、昭和43年に養豚と稲作で営農を開始したが、昭和50年頃から養豚経営が行き詰まりを見せたため、新たな品目を模索した。その結果、妻が主体となって栽培していたコギク生産は、コストのかからない露地栽培であり、単価は低くても利益率が高いことに気付いた。そこで、畜産部門の規模を縮小しながらコギクの栽培を開始して、昭和63年に種豚経営から和牛繁殖経営に転換するとともに次第にコギクの栽培規模を拡大し、現在は、中山間地という不利地域であるが和牛繁殖と有畜連携した複合経営で安定した経営を行っている。

栽培技術の特色としては、コギクと和牛繁殖の両方を手掛けていることを経営のメリットと捉えていることである。飼育している和牛の牛糞に地元の製材所から譲り受けているヒノキのチップにコギクの残渣を混ぜ込み堆肥化し、コギクのほ場に投入することで地力を向上させている。その結果、連作障害を軽減しており、県下のコギク栽培者の中でも有数の生産性の高さ、切花品質の高さは他の模範である。次に、切れ目の無い長期出荷を可能にする品種構成と標高差を活かしたコギクの栽培を行っている。即ち、品種の早晩性を上手に組み合わせるとともに、標高差のある8か所のほ場を組み合わせ、生育をずらすことによって端境期が出ないように調整している。また、花色はどの時期も消費者ニーズに応じて赤・白・黄色の比率を決めており販売価格の安定化に繋げている。

出荷・販売については、コギクの出荷時期は、中山間地でも日中30℃を超えることから、収穫後にキクが蒸れることによる品質低下が懸念され、収穫時間帯を早朝と夕方に加えて、総勢10名で採花、運搬、水揚げを3時間以内に終わらせている。更に、花や葉を傷めないためにコギクそのものの温度を下げる工夫として、作業場全体を冷却し、水揚げ中だけでなく調整作業や出荷までの保管中もコギクが熱を持たないように工夫しており、日持ち向上に繋げ高品質化に成功している。また、平成15年に量販店向けの販売量が増えたことから、梶氏が組合を代表して市場を説得して出荷サイズを80cmから75cmに変更した。このことにより1箱当たりの重量が15kgから12kgに軽減され出荷労働の軽減にも繋がっているほか、トラックに積める箱数が増え輸送費の軽減にも繋がっている。

作業労働改善の工夫としては、無摘心による独自の仕立て方で作業の省力化、作業場の近くに設置したほ場で不足分を補充する措置により出荷調整の大幅な時間削減を図っている。

環境保全の面では、堆肥の利用により、肥料代は、地域のコギク栽培平均の3分の1以下となっており化学肥料の削減に寄与している。

梶氏は、旧下山村農業委員を長年務め、現在は、下山高原生花生産組合長である。また、市と農協が協同で運営する新規就農者育成機関（農ライフ創生センター）から、新規就農希望者を受け入れ、中山間地域の新たな就農者の確保に努め、これまで21名の新規就農者が定着している。

【農林水産省生産局長賞】

豊田 武 ・ 豊田 千代子 (福岡県)

切花 (キク、トルコギキョウ、アスター等)

豊田 武氏は、高校卒業後キク農家で1年間研修を受け、昭和44年に就農し電照ギク栽培を開始した。千代子氏と昭和50年に結婚、これを機に制度資金等を活用して面積を拡大した。平成3年には、台風19号により施設の8割が倒壊するほどの被害を受けたが、厳しい経営状況乗り越え、現在は、電照ギク、トルコギキョウを主体にアスター等多様な品目を組み合わせた経営を展開している。

豊田千代子氏は、武氏と一緒に農作業に携わりながら本格的に農業技術を習得し、現在では、経営管理や実習生の労務管理、直売所の展開など共同経営者として常に経営向上を意識して取り組んでいる。

豊田氏のほ場は、900m級の山々が連なる県中央部古処山系の中間部に位置しており、土地利用型の大規模経営は難しい状況であったため、花き農家への道を選択した。台風災害の際には、復元可能なハウスは自力で修理することで借入金を抑え、また、自作のかん水装置等機械装備に様々な工夫を凝らすことで経費削減に努め、品目の組み合わせによる周年出荷の生産体系を確立し、農業所得は、地域でトップクラスとなっている。

栽培技術について特に工夫した点は、高い施設利用率を実現するため、苗づくりを重視しており、苗は必要量が不足しないよう作付面積よりやや多めに育成、苗生産に合わせて前作の収穫作業が終了するよう栽培管理を調整することで、切花収穫後直ぐに次の品目を定植することを可能にしている。

更に、ほ場に収穫物が多少残っていても次作の定植時期に合わせて早目に切り上げ、土壌消毒や堆肥施用等の土づくりを行っており、適期定植と施設利用率向上を最優先する生産体系を確立している。

現在、主力となっているトルコギキョウの生産は、秋出し(10~11月)及び春出し(3~4月)の作型が主体となっている。両作型とも冷房育苗施設を整備し自家育苗を行うことで種苗費を削減、良質苗を確保することで高品質生産に繋げている。

出荷・販売については、JA共販と9か所の直売所販売を行っており、昨年まで会長を務めていた筑豊地域花き生産者連絡協議会で、花商、市場関係者との意見交換会や商談会を開催し「花の消費拡大」や筑豊の花のPRを行っている。

労働軽減では、自動かん水装置による省力化、自前で工夫した栽培用具の利用を、環境保全や省エネルギーでは、日没後加温(EOD-Heating)による燃油量節減、熱エコフィンの設置を行っている。

武氏は、現在、嘉麻市農業委員のほか、福岡県花卉園芸連合会理事、飯塚花き園芸組合長、地元直売所副組合長等を歴任、地域の花き振興や生産者の連携強調、担い手育成に大きく貢献しており、千代子氏とともに中山間地で優良農地が少ない恵まれない状況下において高収益経営を実現するため、日々試行錯誤しながら手堅い経営努力を続けている。

【農林水産省生産局長賞】

前田 耕一 ・ 前田 綾子（長崎県）
切葉（シキミ等）

前田耕一氏は、高校卒業後就農、昭和48年から転作水田の有効活用のため父親とともにツツジ栽培に着手し、平成15年まで規模拡大を行いながら経営の発展に向けて取り組んできた。しかし、公共事業等の激減とともにツツジ等の花木苗の需要が激減した。

そこで、ツツジと同様の花木であり、これまでのほ場を活用でき、かつ仏事用としての需要が安定しているシキミにいち早く目をつけ品目転換を行った。地域内で同じツツジの経営を行っていた6名も一緒にシキミの栽培を開始して出荷組合を設立させたが、常にその組合の中心となり新たなシキミ産地の発展に取り組んできた。

前田氏がシキミを導入したのは平成16年からで、栽培技術の研鑽や市場開拓、地域農家との新産地育成などに努めた結果、現在、シキミ栽培を主とした経営で県内有数の花き生産者に成長している。なお、シキミは、需要期が明確であることから、農繁期以外の経営対策として2年前から後継者（裕治氏）が中心となってシキミの育苗ハウスや空いている露地ほ場を利用して草花類の栽培に取り組んでいる。特に、ハウス栽培のヒマワリ及びハボタンについては、地域で果樹を栽培している若手生産者3名と一緒に出荷組織をつくり、後継者が組織のリーダーとなって市場との連絡調整を行いながら出荷を行っている。

前田氏は、配偶者（綾子氏）及び後継者（裕治氏）と平成22年11月に家族経営協定を締結し、経営の役割分担や収益の配分、就業条件などを明記している。

また、平成24年度には、「長崎県耕作放棄地解消総合対策事業」を活用して耕作放棄地を基盤整備するなど遊休農地を積極的に整備して農地の集約化を図り、計画的な規模拡大と併せて効率的な営農活動を実践している。

栽培技術について特に工夫した点は、シキミ栽培で植え付け間隔を広くして日当たりを良くすることにより枝にボリュームを持たせることができるが、出荷本数を確保するためには栽培密度を高める必要がある。そこで、立地条件等を考慮して出荷規格別にはほ場を選定し、切枝本数が多くて切枝長も80cm程度で抑えられる栽培管理が可能なほ場は栽植密度を低くし、切枝本数が少ないほ場は栽植密度を高くする等、それぞれのほ場にあった栽培管理方法を実践している。また、老木化による収量低下を防ぐため刈込による成木の若返り、自家育苗による優良系統の増殖を行っている。

出荷・販売については、県単事業を活用して冷蔵保管施設を整備して、需要期の労働時間の平準化、氏が考案したオリジナルの冷蔵庫内水槽式棚の設置、出荷箱の改善等を行っている。労働軽減については、噴霧ノズルの改良による防除方法の工夫、結束機の導入、環境保全面では、本圃で化学肥料を一切使わずペレット堆肥の利用により環境への配慮、地域の畜産農家との連携等を行っている。

前田氏は、シキミ経営を始める以前は、つつじ組合長を長年務め地域のリーダーとして活動してきた。現在は、松浦しきみ組合の代表として常に市場情勢を把握しながら計画生産、計画出荷に取り組むとともに地域農家と共同してイノシシ等鳥獣被害対策で定期的にはほ場周辺の環境整備に努めており、また、長崎県指導農業士に認定され、地域農業振興に当たっての助言など地域の指導的役割を果たしている。

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

島 部 勝 昌（岐阜県）

鉢 物（エラチオールペゴニア）

島部勝昌氏は、学校卒業後、営業職のサラリーマンをしていたが、営業先で花の魅力に惹かれ、1年間の研修の後、平成3年に就農し鉢物生産を開始した。当初は、セントポーリアを中心に栽培を行っていたが、JAぎふが事業主体となって生産者へのリース方式による温室設置の計画が持ち上がり、平成15年に（有）フローラシマベを設立し、リース方式の大規模温室に入居して、セントポーリア、ブバルディア、エラチオールペゴニアの組み合わせで生産を開始した。リース方式の温室は、ムービングベンチ、パットアンドファン、養液管理システム、ポットティングマシン、スペーシングマシンなどを備えた温室である。

その後、近年の価格の低迷やホームセンター等での販売比率の伸びなどから、手頃な価格で良質な花きを安定的に提供することが今後不可欠であると考え、コスト削減と品質向上を図るためエラチオールペゴニアの周年単作経営に切り替えた。周年的に安定して出荷を行うため、旬毎に24千鉢の挿し芽を行い、約3.5か月の栽培サイクルで年36作の周年栽培体系を確立し、全国一のエラチオールペゴニア出荷量を誇っている。

栽培技術で特に工夫した点は、エラチオールペゴニアの良品生産には、年間を通じた適温管理、光管理が重要になる。そのため、低コストで高度な環境管理を行うためパットアンドファン、ヒートポンプ、LEDランプの導入も行っている。夏期の高温は、生育を抑制し、生理障害の発生も見られることからパットアンドファンにより昼間温度を外気より最大5℃程度低下させている。また、平成20年度に導入したヒートポンプにより夜間温度を19℃まで下げることで製品ロス率の低下を図っている。

親株、挿し芽後の生育初期は、花芽分化抑制を行わないと採穂効率の低下や株のボリューム不足となることから、花芽分化抑制に効果が高いと言われる波長(660nm)のLEDランプを導入し、製品ロス率の低下と消費電力の節減を目指している。温室を締め切り冬期の炭酸ガス濃度を維持し生育促進を行うため、平成25年から炭酸ガス発生装置を設置し、冬期の昼間は、炭酸ガス濃度1,000ppmを目安に管理している。

出荷・販売については、岐阜県花き流通センターを通じてバイヤーとの連携を強化するとともに、ホームセンターの各店舗へ宅配で直接配送するなどきめ細かい対応で幅広い販路の確保とリスク分散による安定した販売体制を構築している。

労働軽減や雇用管理については、全ての温室でプールベンチの活用、ポットティングマシン・スペーシングマシンの導入、自動灌水システムの導入を行い、安定した就農環境を提供するため、出荷の無い木曜日と日曜日を休日とし完全週休2日制を導入している。環境保全や省エネルギーについては、MPS-ABCの環境認証への参加、燃料使用量削減に向けたヒートポンプの導入、契約電力管理を行うためのデマンドコントロール装置の導入を行っている。

島部氏は、岐阜県指導農業士として研修生の受け入れや担い手育成の役割を担うとともに、岐阜市園芸振興会花き部会副会長、岐阜花き流通センター農業協同組合理事を務め県下の鉢物生産者団体においても積極的に活動を行っている。

(参考資料1)

花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール受賞者一覧

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備考
24回(26年度)	農林水産大臣賞	岩手	新岩手農業協同組合 八幡平花卉生産部会 (代表者 高村敏彦)	リンドウ(切花・鉢物)	
24回(26年度)	農林水産大臣賞	埼玉	朝見良治	ガーデンシクラメン、ポットカーネーション、イベリス、ランタンキュラス、ペラルゴニウム、ポインセチア、ニチニチソウ、クロサンドラ、カラー、プリムラ等(鉢物・苗物)	
24回(26年度)	生産局長賞	愛知	梶 孝光	コギク(切花)	
24回(26年度)	生産局長賞	福岡	豊田 武 豊田千代子	キク、トルコギキョウ、アスター等(切花)	
24回(26年度)	生産局長賞	長崎	前田耕一 前田綾子	シキミ等(切葉)	
24回(26年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	岐阜	島部勝昌	エラチオールペゴニア(鉢物)	
23回(25年度)	農林水産大臣賞	山形	大築義雅 大築実千代	ミニシクラメン、カーネーション、ハボタン、その他花苗(鉢物・苗物)	
23回(25年度)	農林水産大臣賞	埼玉	フカヤスリーエフクラブ (代表者 関和勝宏)	ユリ(切り花)	
23回(25年度)	生産局長賞	岩手	坂戸明夫 坂戸チヨ	リンドウ(切り花)	
23回(25年度)	生産局長賞	愛知	荒木祥充	アンズリウム、フィロデンドロン、アナナス類、カラテア、ヘリコニア、シダ類等(鉢物)	
23回(25年度)	生産局長賞	長崎	吉塚正弘 吉塚友子	カーネーション、ガーベラ(切り花)	
23回(25年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	岐阜	高橋明利	ガーベラ(切り花)	
23回(25年度)	(一財)日本花普及センター会長賞	福井	JAテラル越前キク部会 (代表者 三浦慶昭)	コギク、リングク(切り花)	
22回(24年度)	農林水産大臣賞	福島	金澤善浩	カーネーション、シクラメン、シュウメイギク、プリムラポリアンサ、プリムラマラコイデス等(鉢物・苗物)	
22回(24年度)	農林水産大臣賞	愛知	株式会社豊楽園 (取締役会長 斎藤豊治) (代表取締役社長 斎藤健治)	フィロデンドロン、フィットニア、ブミラ、ワイヤープランツ、シンゴニウム、ペペロミア等(鉢物)	
22回(24年度)	生産局長賞	福岡	花田哲治 花田泰子	バラ、ユリ(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	沖縄	新垣 進	コギク(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	石川	金沢市砂丘地集出荷場 フラワー部会	ストック、切花ハボタン、フリージア(切り花)	
22回(24年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	坂井浩一郎	キク(切り花)	
22回(24年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	いわい東農業協同組合 花き部会小菊専門部	コギク(切り花)	
21回(23年度)	農林水産大臣賞	佐賀	小柳誠五 小柳一枝	ユリ(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	神奈川	有限会社五領ヶ台ガーデン (代表取締役 窪田敬一)	シクラメン、ニューギニアインパチェンス、ナスタチューム、プリムラジュリアン等(鉢物)	
21回(23年度)	生産局長賞	愛知	稲垣長太郎	カーネーション(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	長崎	有限会社金原園芸 (代表取締役 金原由紀男)	キク(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	熊本	坂崎改輝 坂崎久子	シュッコンカスミノウ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	吉澤明弘	シクラメン、ハイビスカス、オステオスペルマム、ピオラ、クリサンセマム等(鉢物)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	牛島博文	ガーベラ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合 菊部会 (代表者 野谷智樹)	キク(切り花)	
20回(22年度)	農林水産大臣賞	埼玉	有限会社横川花園 代表取締役横川保次	ユリ、チューリップ、ギボウシ等(鉢物)	
20回(22年度)	生産局長賞	岐阜	河合 修	アルストロメリア(切り花)	
20回(22年度)	生産局長賞	福岡	安田 克徳 安田 節子	サカキ、花桃、ニューサイラン、しめ縄、門松、松竹梅等(花木・枝物類)	
20回(22年度)	生産局長賞	長崎	山口 政則 山口 和代	カーネーション(切り花)	
20回(22年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊藤 正規	シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア(鉢物 洋らん類)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備考
19回(21年度)	農林水産大臣賞	埼玉	塩原 茂夫	アジサイ、ポインセチア(鉢物)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	大分	有限会社お花屋さんぶんご清川 代表取締役社長 小久保恭一	リングク(切り花)	第49回農林水産祭 天皇杯受賞
19回(21年度)	生産局長賞	宮城	石巻農業協同組合 花卉部会ガーベラ班	ガーベラ(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	愛知	榑田 倉司	リングク(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	大阪	梶本 定敏	ユリ、アイリス等(球根切り花)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	愛知	小松 英雄	アンズリウム(鉢物)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	福岡	浜野 重登 浜野 明美	バラ(切り花)	
18回(20年度)	生産局長賞	埼玉	安藤 貢	アガパンサス等(苗物)	
18回(20年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社サンコフ	セントポーリア等(鉢物)	
18回(20年度)	生産局長賞	大阪	稲治 義彦	シャクヤク等(露地花き)	
18回(20年度)	生産局長賞	長崎	柴田 定實 柴田 富子	キク(切り花)	
18回(20年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石井 克明	バラ(切り花)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	埼玉	黒田 秀之	コチョウラン(鉢物)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	岐阜	吉田 正博	ガーベラ等(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	千葉	平野 圭祐	アンズリウム(切り花)	
17回(19年度)	生産局長賞	神奈川	加藤 悟	シンビジウム(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	愛知	平野 和美 平野 照美	ポインセチア等(鉢物)	
17回(19年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石橋 正基	カーネーション(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	千葉	丸朝園芸農業協同組合 花卉部 (部長)飯高 重雄	サンダーソニア等(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	福岡	空閑 善実 空閑 桂子	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	生産局長賞	鹿児島	サンライズグリーンヒル 観葉生産組合 (代表者 福留 健一)	オーガスタ等(観葉植物)	
16回(18年度)	生産局長賞	愛知	伊藤 勝久	シクラメン等(鉢物)	
16回(18年度)	生産局長賞	長崎	立石 俊一	バラ(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	澤瀬 一男 澤瀬 ロンタ	コギク等(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	大 阪	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	佐 賀	キク(切り花)	
15回(17年度)	農林水産大臣賞	埼玉	田島 嶽	ガーデンシクラメン(苗物)	
15回(17年度)	生産局長賞	群馬	小倉 文雄	シクラメン等(鉢物)	
15回(17年度)	生産局長賞	愛知	内藤 完次	バラ(切り花)	
15回(17年度)	生産局長賞	長崎	JA壱岐市花き部会 (代表者)下條利一	コギク等(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	高木 兼雄	スパティフィラム(鉢物)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	玉城 昌伸	キク(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	蔵下 良彦	キク(切り花)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	東京	八丈島農業振興青年研究会 鉢物部会 (代表者)大沢猛邦	フェニックス等(鉢物)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	岐阜	株式会社西垣園芸 西垣 正俊	オステオスペルマム(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	宮城	株式会社ハニーローズなんごう (代表者)檜山 恒雄	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	愛知	株式会社H&Lプランテーション 鶴飼 敏之 鶴飼 浩	パンジー等(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	福岡	高橋 三千年 高橋 節子	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	鹿児島	小村 幸一	パキラ等(観葉植物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	神藤 正和	ハボタン等(苗物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	谷岸 隆雄	ハナモモ等(切り枝花木)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	尾崎 進一郎	シンビジウム(鉢物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	松永 宏隆	ユリ(切り花)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	JA東長崎菊部会 (代表者)松尾 修一	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備考
13回(15年度)	農林水産大臣賞	徳島	有限会社岸本農園 岸本 昇 岸本ときこ	ハイビスカス等(鉢物)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	有限会社南原農園 南原 武博	ジャズミン等(切り花)	
13回(15年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社白木園芸 白木 和彦 白木ふさ子	レッドロビン等 (洋蘭・観葉植物)	
13回(15年度)	生産局長賞	佐賀	宮崎 憲治	スイトビー等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合 益田支部 (代表者)中川 剛	キク等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	山田 則明	カーネーション等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	緒方 久幸	ガーベラ(切り花)く	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	西海菊出荷組合 (代表者)川内 通良	キク(切り花)	
12回(14年度)	農林水産大臣賞	愛知	石井 義明	アルストロメリア(切り花)	第42回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
12回(14年度)	生産局長賞	埼玉	成澤 勝司	マリーゴールド(苗物)	
12回(14年度)	生産局長賞	鹿児島	柴崎 喜好	アイビー等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	石川 正樹 石川 結花	ユリ(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	川端 芳彦 川端 葉子	ユリ等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	稲田 良弘	コチョウラン(鉢物)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	小西 幸彦	マツ(盆栽)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	徳永 健史	コチョウラン(切り花・鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	埼玉	小林 滋幸	カランコエ((鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	長崎	JA北高電照菊研究会 (代表者)大谷 虎次	キク(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	埼玉	田中 勲	シクラメン等(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	岐阜	河野 鉄博 河野 常子	ラナンキュラス等(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	愛知	林 富造 林 房子	シンビジウム(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	佐賀	菫蒲 正行	トルコギキョウ等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	中辻 栄治	キク(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	石田 律恵	レースフラワー等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	阿部 雅志	シンビジウム(鉢物)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	森 崇	バラ(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高辻 義邦	ユリ等(切り花)	
10回(12年度)	農林水産大臣賞	岐阜	大西 隆	ミニバラ(鉢物)	第40回農林水産祭 天皇杯受賞
10回(12年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	沖永良部花き流通センター (代表者)泉 貞吉	テッポユリ等(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	群馬	林 康夫	シクラメン等(鉢物)	
10回(12年度)	生産局長賞	香川	農事組合法人香花園 (代表者)保坂重雄	カーネーション(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	大分	有限会社メルヘンローズ (代表者)小畑和敏	バラ(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	沖縄	玉城 哲弘	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	谷藤 幸子	リンドウ等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	山梨	農事組合法人 白根フラワーコーポラティブ	インパチェンス等(鉢物)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊奈 義就	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	宮脇 孝	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	藤本 傳夫	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	中園 英治	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	江頭 富春	カーネーション等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	富田 良成	バラ(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備考
9回(11年度)	農林水産大臣賞	埼玉	奥富 良雄	チューリップ等(苗木)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	愛知	角田 隆幸	ハボタン等(苗木)	第39回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
9回(11年度)	農産園芸局長賞	宮城	宮城県南三陸農業協同組合 花き部会	キク(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	山梨	渡辺 喜市	サンダーソニア等(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	滋賀	小杉 長男	シクラメン等(鉢物)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	沖縄	大城 清利	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	菅原 武男	リンドウ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	栃木	田代 正行	カーネーション(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	木村 実	バラ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	中村 元夫	ディフィニウム等(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉川 公彦	キク等(花苗)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	朝海 常祐	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高尾 保徳	ゴールドクレスト等(花木)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	小嶺 敏博	コウチョウラン等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	岐阜	間宮 敏昭	ハイビスカス等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	福岡	井上 茂之	トルコギキョウ等(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	埼玉	戸谷 武雄	シュッコンアスター(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	静岡	服部 一夫	クルクマ等(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	京都	清水 幸雄	ケンガイキク(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	長崎	鹿山 雅勝	カーネーション等(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	新潟	渡邊 和芳	ユリ(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	三重	松尾 廣文	シクラメン等(鉢物)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉本 利郎	バラ(切り花)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	宮城	平間 久義	ハーブ等(苗木)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	静岡	とびあ浜松農業協同組合 PCガーベラ販売部会	ガーベラ(切り花)	第37回農林水産祭 天皇杯受賞
7回(9年度)	農産園芸局長賞	青森	竹ノ原幸悦	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	埼玉	立石 勝義	ポインセチア等(鉢物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	福岡	南嶋精二朗	ペゴニア等(苗木)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	長崎	本田 敏秀	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	フローラぎふOKI	カランコエ(鉢物)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	月本 雅治	バラ(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	兵庫	中岡 邦康	カーネーション(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	市川 一清	スイトピー等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	渡久山 稔	キク(切り花)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	栃木	菱沼 軍次	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	静岡	大庭 孝史	パキラ等(観葉植物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	埼玉	新 博之	カランコエ等(鉢物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	京都	寺内 一郎	パンジー等(苗木)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	福岡	大隈 博幸	バラ等(切り花)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	沖縄	外間 勝義	キク等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮城	斉藤 達義	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	群馬	小嶋 宏	バラ(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	安部 幹太	シンビジウム等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	堀田 泰規	プリムラ等(苗木)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高知	広岡 稔	アイリス等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高知	小池 龍善	キク等(切り花)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	岐阜	福田 誠	セントポーリア等(苗木)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	福岡	波佐間 廣美	ディフェバキア等(観葉植物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	群馬	萩原 久雄	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	埼玉	千野 純一	インパチエンス等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	大分	飯田花き生産組合 (代表)時松 謙	バラ等(切り花)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	沖縄	宮平 憲男	キク(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮城	手島 徹	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	金本 達夫	バラ(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	矢野 伸太郎	ストック(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	多田 護	ペニカナメモチ(苗木)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	水田 義雄	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備考
4回(6年度)	農林水産大臣賞	宮城	渡辺 俊	シクラメン等(鉢物)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	埼玉	金子 正	カラジューム等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	群馬	中山 忠義	洋ラン(切り花・鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野 喜代太	コチョウラン等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	佐賀	中江 広域	キク(切り花)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	大分	志賀 智貴	ユリ(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	木村 勇一	プラグ苗等(苗物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	林 一郎	ポインセチア等(鉢物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	明崎 勝治	ダリア等(切り花・球根生産)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	町田 一弘	スイトピー等(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	利田 正明	カーネーション等(切り花)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	茨城	鈴木 隆	ホウズキ等(鉢物)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	沖縄	亀谷 英雄	キク等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	秋田	三浦 康之	トルコギキョウ等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	群馬	小内 敬一	アジサイ等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	埼玉	矢作 文夫	カトレア等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	高知	山崎 廣美	ユリ等(切り花)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	森島 衛樹	ハナショウブ等(切り花)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉川 喜一	シクラメン等(鉢物)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	沖野 高人	(花木)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	田代 恒夫	バラ等(切り花)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	栃木	渡辺 武雄	コチョウラン等(鉢物)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	静岡	渡辺 偉	クレマチス等(苗物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	岩手	畠山 正徳	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	群馬	大沢 憲一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	東京	浅沼 一治	フェニックス等(鉢物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野勝次	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	町田 静吾	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	竹内 栄一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	今村 喜和	キク等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉村 隆明	インパチェンス等(鉢物)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	藤原 博文	キク(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	岩手	猿子 恵久	アルストロメリア等(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	埼玉	本多 忠夫	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	栃木	菱沼 軍次	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	群馬	阪本 正次	アジサイ等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	長野	筒井 基博	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	岐阜	河本 弘元	バラ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	静岡	岩倉 廣治	(観葉植物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	完岡 義清	カキツバタ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	中本 博文	ハボタン等(苗物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	時松 謙	バラ等(切り花)	

(参考資料2)

第24回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール実施要領

1. 目的

我が国の園芸の将来を担い、かつ国民生活に潤いと安らぎをもたらすものとして重要な役割を担っている花きについて、生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的とする。

2. 開催団体

(1) 主催 一般財団法人日本花普及センター

(2) 後援 農林水産省

(3) 協賛 一般社団法人日本花き生産協会
一般社団法人日本花き卸売市場協会
一般社団法人全国農業改良普及支援協会

3. 出品資格

露地花きにあつては栽培面積が1ha以上、施設花きにあつては栽培面積が50a以上の花き生産を主とする農業者等であつて、技術・経営に優れ、地域社会に支持と共感を得ているものとする。

4. 出品方法

出品は、自薦、他薦を問わず、「花の国づくり共励会—花き技術・経営コンクール応募用紙（別添1、2）」に所定の事項を書き込み、それに基づく経営及び活動の記録等の必要な資料を添付して提出する。

5. 審査方法

(1) 予備審査

一般財団法人日本花普及センターは、自薦、他薦を問わず応募用紙が提出された出品財について、書類審査等により本審査の対象となる出品財を選考する。

(2) 本審査

付属資料2の審査委員は、付属資料1の審査基準に基づき書類審査、必要に応じて現地調査を実施して、公正な審査を行う。

6. 表彰

(1) 特に優秀と認められた出品財に対して農林水産大臣賞（2点）、優秀と認めら

れた出品財に対して生産局長賞（4点）、一般財団法人日本花普及センター会長賞（数点）をそれぞれ授与する。

（2）農林水産大臣賞出品財は、国の定める「農林水産祭表彰要領」に基づき天皇杯等の選賞資格を有する。

（3）次に掲げる基準のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる場合にあつては、夫婦連名で表彰することができる。

但し、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞並びに生産局長賞に限る。

① 家族経営協定を締結していること。

② 推薦書等において経営主の配偶者の作業分担、従事日数等が概ね5割に達していると確認できること。

③ 農業改良普及センターなどの現場指導組織による意見書が添付されていること

なお、推薦の段階で夫婦連名であるものについては、一般財団法人日本花普及センター会長賞についてもこれに準ずる。

7. 事務局

標記コンクールを実施するため、事務局を一般財団法人日本花普及センター内に設置する。

8. 開催日程

（1）出品募集期間 平成26年8月25日～11月30日

（2）予備審査 平成26年12月

（3）本審査 平成27年1月13日（火）
一般財団法人日本花普及センター 5階会議室

（4）現地調査
平成27年1月26日 埼玉県
朝見 良二
平成27年2月11日 岩手県
新岩手農業協同組合
八幡平花卉生産部会

（5）表彰式 平成27年3月9日（月）13：30～
学士会館（東京都千代田区神田錦町3-28）

(付属資料1)

花き技術・経営コンクール審査基準

- 1 立地条件を活かした合理的、安定的な経営であること
- 2 経営に計画性と展望をもち、近代化、拡大化の方向をたどっていること
- 3 消費動向を的確にとらえ、消費者ニーズに応える経営を行っていること
- 4 栽培技術は、科学的基礎に基づき、その水準が高く優れ、改善意欲が盛んなこと
- 5 生産基盤の整備、資本整備の投資がかなり行われ、その利用効率が高いこと
- 6 土地利用及び労働力利用が合理的であること
- 7 生産性が高く所得が水準以上と認められること
- 8 労働軽減等により、ゆとりある農業を実現していること
- 9 環境保全に対する工夫や配慮が見られること
- 10 国際化対応を考慮した経営がなされていること

(付属資料2)

第24回(平成26年度) 花き技術・経営コンクール審査会委員名簿

氏名	所属・役職
腰岡政二	日本大学生物資源科学部 教授
土井元章	京都大学大学院 教授
河野恵伸	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 食農連携プロジェクト リーダー
長村智司	一般社団法人フラワーソサイエティ 会長
田島鉄弥	一般社団法人日本花き生産協会 顧問
長岡 求	株式会社フラワーオークションジャパン 取締役

第24回花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール受賞者の業績概要

平成27年3月発行

編集・発行 一般財団法人日本花普及センター

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階

TEL : 03-3664-8739 FAX : 03-3664-8743

e-mail : jfpc@jfpc.or.jp

URL : <http://www.jfpc.or.jp>



いいこと
あった日、
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン